

導入・活用事例



関東職業能力開発大学校

設立●1983年(小山職業訓練短期大学校) 2001年(関東職業能力開発大学校)
 専門課程●生産技術科・電気エネルギー制御科・電子情報技術科・建築科
 応用課程●生産機械システム技術科・生産電気システム技術科・
 生産電子情報システム技術科・建築施工システム技術科
 キャンパス●栃木県小山市
 学生数●約400名

お話し 援助計画課 能力開発総合アドバイザー 太田 清氏
 学務課 就職支援アドバイザー 福富幸夫氏

主に高等学校卒業生を対象に基本から高度な技能・技術までを体系的に習得する2年間の専門課程と、これに続くさらに高度な技術・能力を養う2年間の応用課程があり、約8割の学生が専門課程修了後に応用課程へと進む。

RCC導入のきっかけ

太田 4年間ではなく、専門課程の2年で社会に出る学生もあり、進路指導はキャリア教育が大変重要です。本校ではキャリア相談室を設置して学生をサポートしていますが、RCCは販売開始初年度から継続して活用しています。雇用問題研究会で開かれた第1回RCCセミナーに参加して、渡辺三枝子先生の講義を聞いてすぐに導入を決めました。「学生が『就活』に取り組む体験を、成長するための学習の機会とする」というコンセプトに惹かれました。支援者側がいくら「就職」とか「キャリア」について強調しても、最終的には学生本人の気づきや決断が最も大切です。RCCはその部分にスポットを当てている点が非常に魅力的でした。
福富 就活は、学生にとって初めての経験ですが、RCCを実施することにより、自分にとって「就職」とは何かを考え、「就活」にきちんと向き合うことを通して、自分の人生と職業、キャリアプランについて考えるきっかけとすることができそうです。そこがまさにキャリア教育ではないでしょうか。
 1回目は、専門課程の1年次にキャリア形成論の授業の中の「就職」とはじめて講座で全員が受ける。2回目は、3年次の応用課程の職業能力開発体系論の中で実施、そこで

早めの気づきこそキャリア教育のカギ

関東職業能力開発大学校

関東職業能力開発大学校は、厚生労働省が所管し、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が運営する職業訓練施設。実践技術者の養成を目的とする同校では、RCCを継続活用して就職支援を行っている。

学生の成長を見ることができると、個別面談と学科別支援

太田 五つのポイントをチェックしますので、就職に対する基本的な考え方を確認し、気づきを得るのに大変有効です。特にチェックリストの第1問「働くことに魅力を感じている」に着目しています。この答えが、その後の大学生活の過ごし方を考える材料になります。社会に出る前に、社会に出て働くという前向きに捉えられるようにすることがキャリア教育の重要な目的の一つだと思います。ですから1年次に全員に受けてもらうのです。
福富 RCCセミナーの際に湘北短大の近藤氏が言われた「就活とは素直になること」という言葉を引用させていただき、学生に丸太の転がる動きに対応するアクションをさせます。「丸太が転がってくるぞー、ジャンプしてください」ですね(本誌2012年秋季号12ページ参照)。そうしてRCCを実施すると、学生は皆素直に回答してくれて、モチベーションも上がっていきます。

本校は技能・技術を習得する理工系大学校なので、将来のキャリアプランができていない学生が多いのですが、明確でない学生もいます。RCCの結果から、一人ひとりのキャリアに対する意識を把握し、その後の支援を必要とする学生もいますので、RCCの回答結果は役立ちますね。

やりっ放しではなく、結果に応じた支援が重要ですので、われわれが必ず一人ひとりと面談して就職に対する意識を確認しています。また、専門課程の4学科では就活への取り組み方は

それぞれ違います。RCCのアンケート部分を含め、学科ごとに学生の全結果を一覧にして、点数を明記し、グラフを作成したうえで各学科の教授にフィードバックしています。それを学科別の進路指導に役立ててもらっています。

就活を意識する10

福富 ワークブックには、就活に必要なことがほぼ網羅されています。全て読んで内容を理解すれば、就活にあたり何を知る必要があるかがわかる。また、各学校によって就職ガイダンス等のイベントのスケジュールは違うため、裏表紙の空白に自校の予定表を貼って活用できる、とのことでしたので、本校では学生に「就活等活動計画」という計画表を貼り付けてもらい、常に就活を意識させています。学生はこのワークブックを見る度に自然と目に入るので、意識を維持できます。

RCCには、キャリアセンタールの活用についての設問項目がいくつかあります(本校では、「キャリア相談室」と読み替えています)。これは、まさにわれわれ支援者が願っていることです。学生が進路や就職で悩んだり何かあったら、すぐに相談に来てほしいのです。これらの設問は、支援者からのメッセージであり、同時に学生だけでなくわれわれへのメッセージでもあると思います。

太田 本校の平成28年度の就職率は、専門課程・応用課程とも100%でした。企業からの高い評価は、RCCの活用をはじめ業界研究、学内会社説明会、面談等の総合的な就職支援の賜物と考えています。教員・職員一丸となつて、今後とも学生に対して就職支援を続けていきたいと思っています。



浜松学院大学

設立●2004年
学部●現代コミュニケーション学部(地域共創学科・子どもコミュニケーション学科)
キャンパス●布橋キャンパス・住吉キャンパス
学生数●438名(2016年5月現在)

お話し 学生支援グループ長 天野弘美氏

浜松学院大学の現代コミュニケーション学部は、現場に立脚した能動的な学びを重視し、子どもコミュニケーション学科では、時代や地域のニーズに応えられる教育者や保育者の養成を目指す。

RCC導入のきっかけ

天野 静岡新卒者就職応援本部(静岡労働局・ハローワーク・静岡県・静岡県中小企業団体中央会)が、2015年に卒業予定の大学(院)生・短大生・高専生・専修学校生等を対象とした「大学生等合同企業説明会」を開催した際に、就職活動への取り組みを測定するツールとしてRCCを使用していました。その後RCCを推奨される機会もあり、導入することを決めました。

本学では1年次から、将来の目標や社会人像に向かって4年間をどのように過ごせばいいのか、自分自身のキャリアを自分でデザインし人生設計できるように、段階的指導を実施して、自己の考える力、目標に向かってチャレンジする姿勢を養成しています。教員と学生支援グループが共同して運営する授業「キャリアデザインI・II」を3年次に設けており、その中で4月にRCCのペーパー版を実施しています。

RCC利用のねらい

天野 3年次の4月というのは、これから就職するにしろ進学するにしろ、学生はまだまとまった時期です。RCCを実施することにより、キャリアというものを具体的に意識づけしてもらい、自己理解を深めてもらうことが重

就活を始めるための最初のステップ

浜松学院大学は静岡県浜松市に位置し、現代コミュニケーション学部(地域共創学科と子どもコミュニケーション学科)の2学科を有する。RCCを就活のステップ、自己理解ツールとして実施している。

要であると考えています。自分自身が新たなステージへ向かって、まさに一歩踏み出す最初のステップとして活用していると言えます。

RCCの実際の活用については、外部講師として新卒応援ハローワークからジョブポーターを招き、講義してもらっている。キャリア授業担当教員からも「就職指導をするのに、欠かせないツールとなっているので、今後も継続使用して指導を行っていきたい」との声があがっている。

きめ細かなサポート

天野 本学では、就職活動をサポートするための就職支援室を設置し、個々の学生の希望を踏まえて、専任スタッフが学生一人ひとりの個別指導に重点を置き、希望の職業に就けるようきめ細かく指導するとともに、不安や悩みの相談にも応じています。

将来進みたい方向性を確認する個別面談の初回を7月に行いますが、4

月に実施したRCCは、学生の就職に対する意識づけに効果が大きく、就職支援をする側としても自己理解・職業理解の導入に大変役立っています。

浜松学院大学は、週刊東洋経済「本当に強い大学2017」の「3年間就職率ランキング文・人文系部門」で、全国第5位に選ばれた。地域に密着した少人数教育は、就職支援においても一人ひとりに合わせたきめ細かなサポートにつながっている。その結果、毎年高い就職率を達成している。

天野 RCC就職レディネス・チェックをはじめ、外部講師を招いたマナー講座や面接対策講座、ロールモデルを招いた職業理解、さらには教養試験対策を中心とした基礎学力向上講座や一般常識講座など、採用試験対策も実施しています。今後もスタッフ一同、全力で学生の就職支援に取り組んでいきたいと思っています。

●学生の感想から

「大学で実施をしてくれば、受ける機会はなかったと思うので、受検できてよかった。受検をして、自分の長所、短所がよくわかった。2回目の実施は自分で取り組んでみようと思う」

「就職するにあたって必要な心構えとは何で、自分にどれだけ備わっているのかを確認できた。思い込みが自分を不自由なことに気づいたので、先入観をなくして広い視野で就職活動に取り組みたい。このツールはとても役に立った」

「自分が就職に対して意欲的だったことがわかり、不安が和らいだ。このチェックを受けることができ、とてもよかった」

「今まで漠然としたイメージでしかなかった将来が、いよいよ現実になることを実感できた」

「進路に迷っていたので就職意欲が低いという結果が出たが、自分の足りないところを意識的に改善し、自分がどうしたいか今後じっくり考えたい」